

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 11月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201321		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村二番地		
所在地	札幌市北区新琴似11条16丁目10番9号 (電話) 011-768-3510		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】 (20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 3人 非常勤 5人 常勤換算 4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2階建ての 1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 20,000円
			暖房費(11～3月) 8,000円
敷金	有()円 ○無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 ○無	有りの場合償却の有無	有 / ○無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	6名	男性 3名	女性 3名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 73歳	最低 60歳	最高 79歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北成病院、みき内科クリニック、中江病院、カルチェド歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅改造型で定員6名の小規模ホームであり、介護事業に真摯に取り組む運営法人の姿勢が職員のケアサービスに反映されている。職員は利用者の日々その人らしい暮らしを支援するため、一人ひとりの思いや意向を大事にしながら、お互いに信頼し合う関係を築き、大家族が仲良く一緒に生活しているような雰囲気のあるホームとなっている。さらに、地域との連携にも努力し、町内会行事への参加や周辺住民が庭の整備や野菜を持って訪れるなど、地域に密着した関係が定着してきたホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回提案の評価に対する改善計画シート活用及び運営推進会議の開催数増加は、職員会議で検討しながら速やかに実施しており、評価に対して、積極的に課題解決に取り組む姿勢が感じられる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員が作成に係わり、全項目を各自が検討してまとめている。自己評価の結果は、改善計画を立て順次改善に向けて取り組みながら、より優れたホーム作りに役立っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は概ね2ヵ月毎開催し、ホーム運営状況報告や参加者との意見交換があり、ホーム側から防災訓練への協力や町内会行事への利用者参加など、地域とホームとの連携強化を要請している。ホームの防災訓練には、周辺住民による見学や協力があり、運営推進会議を活かした取り組みを行なっている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見や要望はあまり出ていないが、要望などが有るときは申し送りや職員会議で話し合いながら、改善へ取り組むようにしている。大きな問題がある際には運営法人全体の課題として、本社を含めて協議し、利用者のサービスへ反映するように努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム開設後、5年経過の中で町内会加入や町内会行事への参加、運営推進会議開催など、ホーム側の積極的な努力によって、近隣住民が畑の整備や食料品を提供していただいたり、防災訓練に協力していただくなど、日常的に地域との交流が図れている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは、運営理念に基づいて地域との交流を大事にしている。利用者は地域行事に参加するなど、周辺住民と親しみのある関係を築きながら、住み慣れた地域の中で安心して暮らしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、ホーム開設当初や職員採用時に説明しており、日常においても申し送りや職員会議で理念に基づくケアサービスを確認し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは町内会の夏祭りや清掃活動などに参加し、防災訓練にも地域住民の協力をいただいている。さらに周辺住民が菜園の手入れや食料品を差し入れていただくなど、ホーム開設後の5年間に地域の理解と交流が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の必要性を職員は理解しており、自己評価作成には、全員が参加して取り組んでいる。評価結果は改善計画シートを活用しながら、利用者のケアサービスに反映させるよう努めている。		

札幌市北区 笑顔の村二番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、都合により開催回数の少ない時期もあったが、現在は概ね2ヵ月毎に開催している。会議ではホーム運営への協力要請や参加者の要望など、活発な意見交換があり、会議を通じて地域の理解が深まっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者会議などで市担当者と接触があるほか、管理者や計画作成者が区の担当部署を訪れて相談したり、情報収集を行なうなど、行政との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや新人職員紹介など、毎月のホーム便りで伝えているが、担当職員による写真付き利用者ごとのお便りが家族の好評をいただいている。また、家族の来訪時にも職員から話しかけて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在まで家族からの苦情や不満はあまり出ないが、要望などがあれば申し送りや職員会議で検討し、大きな問題については、運営法人の本社に報告しながら、利用者本位に改善するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近職員の異動などが殆ど無く、利用者の不安などは発生していない。今後、職員の異動や離職による交代が有る場合は、利用者の思いなどを聞きながら、根気よく話し合い、影響を最小限にするよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、管理者会議や各種研修会参加者がその内容を内部研修として報告したり、運営法人のほかのグループホームとの相互実習を行なうなど、職員の質的向上のために努力している。	○	複数ホームを運営する法人は、職員を育てる取り組みにも熱心で、職員は各種研修会に参加の機会を与えられている。さらに、非常勤職員を含めて、救命救急訓練なども定期的に職員全員が受講し、自信を持ってケアサービスに専念できるよう、今後も育てる取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は管理者会議に参加しながら、ほかのグループホームとの情報交換を行なっている。また、ホーム所在地に近いほかのグループホームとも相互訪問や合同の行事実施を予定しており、ほかの業者との交流を図りながら、ホーム運営に反映させるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに新しい利用者がある場合は、事前にホームを見学していただき、時には食事とともにしながら、ホームやほかの利用者と馴染んでいただくよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は食事の準備・後片付け、掃除などを職員と一緒にしない、菜園の栽培方法や調理方法を教えていただきながら、ともに作業をするなど、お互いに支え合いながら、家族的雰囲気の中で暮らしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的係わりの中で、利用者の思いや意向を把握するように努めている。把握困難な時は、日誌に記載して職員全員の共有としながら、会議で検討したり、表情や行動から意向などを見出すようにしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者の担当職員が決まっており、ケアマネの管理の下に担当者が家族や関係者の意見を参考にしながら、計画原案を作成している。この原案を職員会議で検討しながら作成し、職員全員の共有としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に3ヵ月毎見直しを行なっている。利用者に状態変化が発生したときは、家族にも相談しながら、実情に合った計画内容を検討するなど、随時見直しを図り、家族に説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは利用者の通院、花見や食事会などの外出に介護タクシーを利用して支援している。ホーム内では訪問理美容、ボランティアの慰問受け入れなど、利用者が不自由無く、楽しく暮らせるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームでは24時間対応の協力医療機関による訪問診療が隔週毎にあり、希望者は受診可能である。また、かかりつけ医など、ほかの医療機関への受診も自由で、家族が付き添い、出来ないときは職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期におけるケアは、家族や医療機関と慎重に相談しながら対応する方針で、家族へは入居時にその旨を説明している。重度化などへの指針は作成しているが、内容から家族の不快感を避けるため、利用者がその事態に近づいた際に、改めて説明することになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の暮らしぶりをホームページで閲覧できるが、パスワード設定のため、家族以外は見ることが出来ないようにしている。利用者の個人記録も外部に漏れないよう書類管理を含めて、プライバシー確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせながら、散歩やショッピングの外出、趣味の作業、唄やゲームの楽しみごとなど、日々、ゆったりと楽しく過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事メニューは、食材会社に依頼しているが、1日1食分は利用者の好みを聞きながら、自由に設定している。食事準備や後片付けは利用者にも手伝っていただき、食事中は職員が話しかけながら、一緒に食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、午後の時間帯に利用者一人ひとりが週2回以上を原則として実施している。就寝前に入浴を希望する利用者もあり、時間外であるが希望に応じて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は日常的に歌、塗り絵や習字の趣味、ゲームを楽しみ、食事準備や後片付け、菜園作業などの役割を持っている。また、ホームはボランティアを積極的に受け入れ、利用者はフラダンス、踊りなども楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間以外は、ホーム周辺の散歩やショッピング、町内会行事やホーム年間行事に出かけている。また、年1回、利用者一人ひとりの希望を聞き、喫茶店、モスバーガーなど一人又は少人数単位で出かける支援も行なっている。	○	ホームは、日常的な外出支援を冬期間以外は十分に実施している。しかし、全グループホーム共通の課題である冬期間の外出支援について、大型ショッピングセンター訪問などの工夫をし、対応策検討を期待したい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは、正面玄関、ユニットドアとも日中は施錠していない。玄関付近にはセンサーがあり、内部からも見やすい建物構造のため、利用者や外来者の出入りは明確に分かるようになっている。		

札幌市北区 笑顔の村二番地

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は、消防署の協力をいただきながら、年2回実施している。災害時における地域の協力を運営推進会議でも説明しており、訓練時には周辺住民にも参加していただいている。今後は夜間想定訓練も実施予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分量、食事の摂取状況を介護日誌に記録し、栄養バランスも食材会社の栄養士によるカロリー計算がなされている。また、1日1食はホーム側で利用者の好みを聞きながら調理しており、画一的な食事にならないよう配慮している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅改造型の小規模ホームで、スペース的余裕は無いが住みやすいように改造されている。居間には利用者の作品や季節の植物が飾られ、金魚も飼っており、小規模が故に極めて家庭的な雰囲気に満ちた共有空間が実現している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の形態は、住宅改造型のため若干異なるが、広さは十分で、安全な集中暖房が設置しており、利用者は使い慣れたものを持ち込みながら、自由に居心地良く過ごしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。